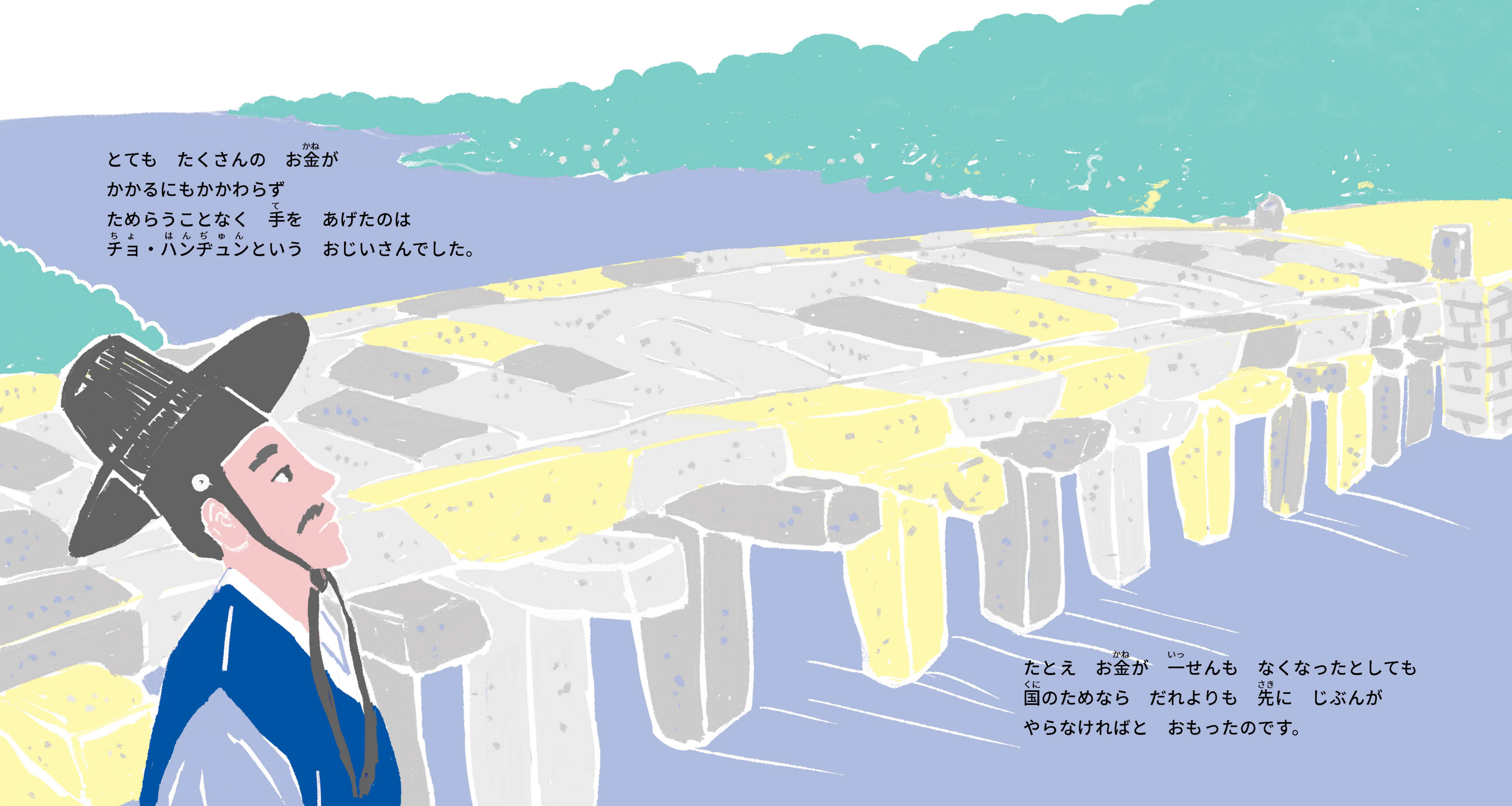


むかしむかし ^{おう}王さまが ^{くに}国を おさめていたころの ことです。
^{くに}国に ^{ちゅうごく}だいじなことが ^{ちゅうごく}あり ^{ちゅうごく}中国からの ^{ちゅうごく}つかいを
むかえることになりました。

「^{おう}王さま、^{ちゅうごく}中国から ^{くに}わが国に ^たくるためには ^るタルレ川を
^わわたらなければなりません、^{くに}国に ^{かね}お金が ^ななくて ^はしを
^かけることが ^できません」

^{おう}王さまは ^{くに}国じゅうに このことを ^しらせ、
^はしを ^かけてくれる人 ^を ^{ひと}さがしました。
しかし ^みずから ^{かね}お金を ^だ出して
^はしを ^かけようという人 ^は ^{ひと}
いませんでした。
^じかんが ^たつにつれ、
^{おう}王さまは ^ととても
^{しん}ぱいになってきました。



A man with a mustache, wearing a black traditional Korean hat (gat) and a blue robe, is looking up at a large, rectangular stone table. The table is made of many grey stone blocks with yellow mortar joints. It has a grid-like top and thick, rectangular legs. The background shows a blue sky with green clouds and a green hill.

とても たくさんの お金^{かね}が
かかるにもかかわらず
ため^てらうことなく 手を あげたのは
ちよ^ち・はん^{はん}ぢゅん^{ぢゅん}という おじいさんでした。

たとえ お金^{かね}が いっ^{いっ}せんも なくなったとしても
くに^{くに}のためなら だれよりも 先^{さき}に じぶんが
やらなければと おもったのです。

はしが ほとんど できあがったときの
ことでした。

ちょ・はんちゅんおじいさんが
ねむっていると ゆめに しろい ふくを
きた おじいさんが 出てきました。



「^{くに}国のことを おもう おまえの きもちは
ほんとうに とうといものだ。
いずれ おまえの しそんの いえに
^{かみ}神さまのむすめを おくってあげよう」



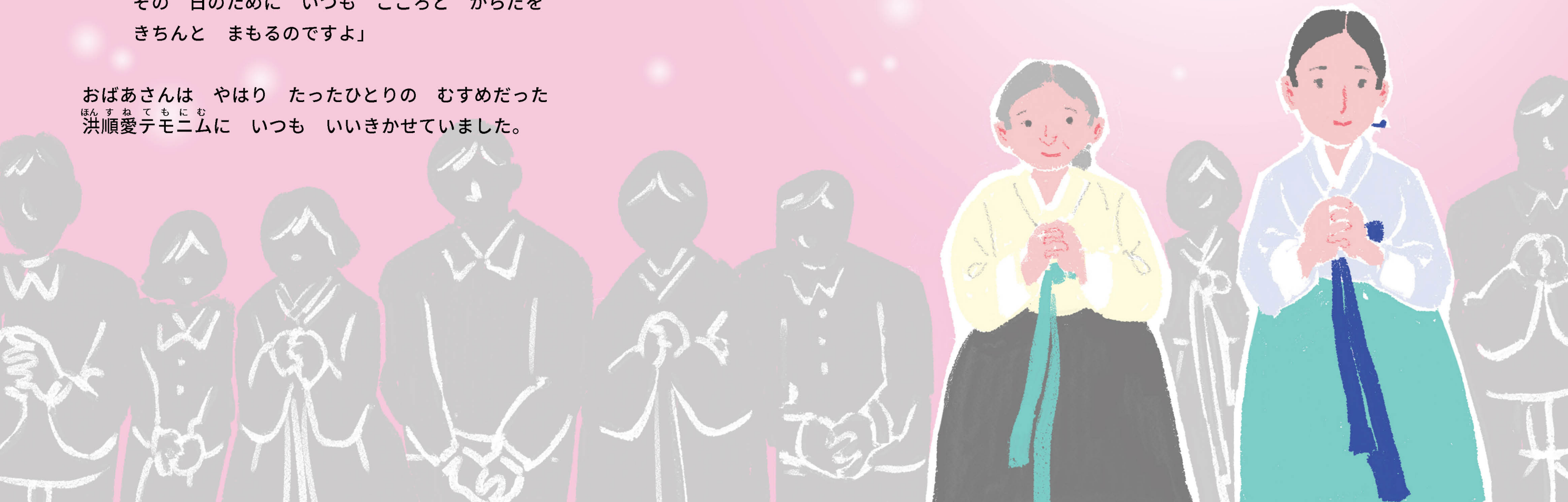
それから ながい ^{つき ひ}月日が ながれました。

そのいで たったひとりの むすめとして そだった ^{ちよ うおんも}チヨ・ウオンモ
おばあさんは せんぞだいたい つたわってきた ^{ちよ はんぢゅん}チヨ・ハンヂュン
おじいさんの はなしを かたときも わすれたことは ありませんでした。

「^{すね かみ}スネ。神さまが わがやに ^{かみ}神さまのむすめを
おくってくださいと おっしゃったのよ。
その ^ひ日のために いつも こころと からだを
きちんと まもるのですよ」

おばあさんは やはり たったひとりの むすめだった
^{ほんすねてもにむ}洪順愛デモニムに いつも いいきかせていました。

^{ほんすねてもにむ}洪順愛デモニムは おかあさんと いっしょに
まいにち きょうかいに ^い行っ おいのりをし、
いっしょうけんめい せいせいを つくしました。



ほんすねてもにむ
洪順愛デモニムが けっこんして まもない ある日の ことでした。
いつものように おいのりをしていると、天から こえが
きこえてきたのです。

「スネよ！ おまえが むすこを 生めば、
うちゅうの王さまに なるだろう。
むすめを 生めば、うちゅうの女王さまに なるだろう」

すうねんご、ついに その日が やってきました。
かみ
神さまが ずっと まえに やくそくされた むすめを
ほんすねてもにむ
洪順愛デモニムに おくってくださったのです。



「きのうの よる、ふしぎな ゆめを ^み見たんだ」
「どんな ゆめを ^み見たのですか？」
「うっそうとした まつばやし^{なか}の中で、
うつくしい ^ひ日のひかりを あびながら
つるが 2わ、なかよく あそんでいたんだよ」
「まあ！ そんな ゆめを ^み見たのですか？」



「もうすぐ ^う生まれる ^こ子どもの なまえを
^{はくちや}鶴子と なづけよう」

^{ほんすねてもにむ}洪順愛デモニムは ^{おお}大きな おなかを なでながら
うなずきました。